

より高い専門性と実践力のある産業カウンセラーを目指して

産業カウンセリング 実力向上のすすめ

シニア産業カウンセラー育成講座・概要

産業カウンセラー養成事業部

産業カウンセラーに必要な技能や能力としては、まず基本として 1 対 1 の対面によるカウンセリング力が必須の事項です。さらに企業という限定された場だけではなく、様々な「働く現場」で必要とされている専門性の高い、実務経験に基づく対応ができる人材であることが求められます。日本産業カウンセラー協会ではそのような人材の育成を推進し、一定のレベルに到達したと認められた方に、産業カウンセラーの上位資格として「シニア産業カウンセラー」の資格を付与しています。

シニア産業カウンセラー育成講座(以下、シニア育成講座)では、実践的な内容で経験を深め新たな気づきを得ることで、実力をさらに伸ばす一助となるような講座を目指しています。

産業カウンセラーとしての実践力を向上し、より専門的な知識を高めるため、本講座をぜひご活用ください。

●受講対象者

- ・産業カウンセラー、もしくはシニア産業カウンセラーの資格を有していること
- ・日本産業カウンセラー協会の資格登録をしている会員であること
- ・シニア産業カウンセラー育成講座の受講約款に同意し、指定された誓約書を提出すること

●開催地と時期

シニア育成講座に限らず当協会で開催されるすべての講座については、所属する支部だけでなく、どちらの支部でも受講が可能です。

所属支部で開催されない、日程が合わない等の場合は他の支部でも受講することができます。シニア育成講座は全国で開催していますが、各支部での応募人数を見ながら開催地および日程を調整させていただいております。開催予定は当協会本部ホームページに公開され、随時更新しています。

<https://www.counselor.or.jp/course/newcourse/tabid/466/Default.aspx>

●受講料(本体価格)

No.23-1 のみ	3,500 円+消費税	3 時間の科目	7,500 円+消費税
6 時間の科目	15,000 円+消費税	12 時間の科目	29,000 円+消費税
18 時間の科目	43,000 円+消費税		

●申し込み方法

募集期間は原則として開催月の 3 か月前の毎月 1 日～10 日の間となっています。

募集月の 10 日までに定員に達していない場合は延長募集を行う場合があります。

協会本部ホームページより、会員マイページからお申し込みください。

郵送・FAX での申し込みは原則として受け付けておりません。

キャンセルの条件等については協会本部ホームページに掲載されている受講約款をご参照ください。

講座に出席・参加されない場合は、講座当日以降に配布されるレジュメ・資料の配付はございません。

科目 No.11-2 逐語記録・事例報告の作成と検討(2 期)のみ、6 か月前からの募集となります

●目指すシニア産業カウンセラー像

協会としての大きな目的のひとつは、3つの活動領域(1. メンタルヘルス対策への支援、2. キャリア形成への支援、3. 職場における人間関係開発・職場環境改善への支援)に対応できる、プロフェッショナルとして社会に通用する経験と専門性を十分に兼ね備えたカウンセラーを輩出することです。

この3つの領域で期待される産業カウンセラーとは、メンタルだけでなく、キャリアや組織・職場の風土作り、風土改革などの課題を総合的に取り扱って活動できる人材となります。

そこで期待される、目指すシニア産業カウンセラー像とは『3つの領域においてより実践力を持ち、専門的な知識を有していると認められる人材』となります。

そのような人材を育成するためにシニア育成講座では、学ぶ分野を4つに分類しました。

- ①カウンセラーとして社会に通用する倫理観を持ち、相手に伝わる文章力・表現力があること。そして産業カウンセラーに何が求められているのかを正しく理解していること。(分野Ⅳ)
- ②個人面接による相談活動を中心としたカウンセリングの経験に伴う能力・スキルがあること。(分野Ⅰ)
- ③企業組織そのものを健康的なものにする支援ができること。(分野Ⅱ)
- ④コンサルタント、コーディネーター、ファシリテーターなどの機能を果たし、③を実現するために自らが動くという能動的なカウンセラーであること。(分野Ⅲ)
- ⑤福利厚生的な視点のみならず、労働安全衛生的な視点も持っていること。(分野Ⅲ、Ⅳ)
- ⑥常に自らをふりかえり、課題を認識し、自己研鑽に努めていく姿勢を持ち続けている人であること。(分野Ⅰ～Ⅳ)

分野	産業カウンセラーに期待される事項
I	信頼され影響力を持つ能力(カウンセリング力) <ul style="list-style-type: none"> ・クライアントによって各種療法を使い分け、問題解決への支援ができる ・キャリアカウンセリング、キャリア教育ができる ・産業保健スタッフと協働が適切にできる ・クライアントおよび組織に対して、危機介入ができる
II	人間関係・組織開発を支援する能力 <ul style="list-style-type: none"> ・対個人ではなく、グループを扱うことができる ・企業風土の改善を支援できる ・産業現場の多文化・多様性(ダイバーシティ)への対応を支援できる
III	組織に働きかける能力 <ul style="list-style-type: none"> ・メンタルヘルス支援体制の構築、維持運営を支援できる ・関連各部署と連携を取り、組織と個人を支援できる
IV	シニア産業カウンセラーとしての素養的能力 <ul style="list-style-type: none"> ・シニア産業カウンセラーとして何が必要かを理解できる ・相手から求められていることを理解し、それを文章化できる ・必要な職業倫理を理解し、倫理的課題に対応ができる

●シニア育成講座とは

産業カウンセラー養成講座においては上記で示した①～⑥すべての要素が入っているものの、まずは傾聴を基本とした上記②を学び、一定のレベルに達したと認められることで産業カウンセラーの資格を取得します。

個人面接であるカウンセリングは産業カウンセラーの基本となり、重要ですが、個人面談の能力だけではシニア産業カウンセラーとしては不足しています。

そこでシニア育成講座では、上記Ⅰ～Ⅳについてさらに学びを進められるように科目を揃えました。

これまで研修という講師が一方向的に講義し、受講者はそれを黙って聞いているだけという講座が多かったと考えます。それでは知識は身につくかもしれませんが、実践的な力をつけていくことは困難です。目指すシニア産業カウンセラーとなるには、まず自分で体験してみて、自分は何がどの程度できるのか、自分に足りないものは何かを知ることが肝要であると考えます。

そこでシニア育成講座では、できるだけ講義の比率を減らして自ら体験できる部分を増やしています。書籍や参考図書は在宅学習で取り組むことで各自が個人で学ぶことはもとより、講座に参加し、受講者同士で演習を行ったり、事例を検討したり、討議したりすることで、講座の場を通して互いに学び合い、深めていくことで実力をつけていくことを目指します。

講座の受講前に送られてくる事例を事前に各自で検討して当日に持ち寄り、指定された図書をあらかじめ読んでくる、というような事前学習の課題が科目ごとに設定されています。事前にある程度の準備をしていただくことで、講座の当日になって初めて何をやるのかを知るのではなく、事前に何を学ぶのかについて理解をした上で受講いただけるような講座となっています。

また、各科目の受講を終えるにあたっては修了レポートが設定されています。確実な修得をはかるため、修了レポートを確認することなど履修ごとに認定を行い、一定の基準に達したと認められた場合に修了証が発行されます。レポート作成が設定しにくい科目についても他の方法で修了認定を行います。

各講座のシラバス(学習内容)の概要については、3 ページ以降をご参照ください。

(※学習内容の詳細部分については講師によって異なる場合があります。詳しくは募集時にホームページへ掲載される各科目の募集概要をご参照ください)

●科目の履修順序

履修の順序については特に定めていませんが、導入部分にあたる科目 No.23-1、No.23-2、No.22 からの受講を推奨します。基本的には受講できるところから履修していただいて問題ありません。

ただし No.20、No.21 等の科目によっては、すでにその科目に関する事項についてある程度学んでいることが前提となっているものや、先に受講しておくことが望ましい科目もあります。募集時の募集概要には事前学習の内容や修了のための条件が記載されていますので、よくお読みの上でご応募ください。

●募集人数

原則として 1 科目あたり 18～20 名を標準とした講座となっていますが、講座により異なります。また、最少催行人数に達しなかった場合は開催を中止させていただく可能性があります。

●事前学習

あらかじめ講座内容に対する理解を深めるため、科目ごとに事前学習が設定されています。指定図書やレジュメ、または事前に指定される課題を行った上での受講となります。科目によっては事前にご提出いただく場合もあります。

●修了条件

シニア育成講座では、各科目とも実習やグループ討議を非常に重要視していますので、全日程・全時間の連続した出席、および科目ごとに設定される事前課題や修了レポートなどの提出が必須となります。したがって自己都合による欠席、遅刻、中抜け、早退等の場合や、事前課題が指定された時点までに提出されないなどの場合は修了できません。

どの科目も最終的にA～Dの4段階で評価され、C評価以上の場合に修了となります。修了に必要な条件や時間数は科目ごとに違うため、詳細は募集時に公開する募集概要をご参照ください。

●守秘義務

科目によっては自分が担当したクライアントはもとより、他の受講者が提示するクライアント情報や関係者のプライバシーについても守秘義務があるため、シニア育成講座の受講を開始する前に、守秘義務に係る誓約書をご提出いただけます。ご提出いただくのは初回受講開始前の1回のみとなります。

安全かつ安心して学べる場を作るため、許可なく録音、録画、PCの使用はできません。受講中は、一部の科目および講師からの許可がある場合を除き、携帯電話、スマートフォン、タブレット、PCなどの機器はバッグ等に入れていただきます。

なお受講中に許可なく撮影、録音された場合は、記録媒体を回収もしくは削除の確認をした上で直ちに辞退いただき、当該科目は未修了となります。

●各分野における科目の概要

科目の概要は修正される場合があります。

すべての科目について事前の課題や、講座受講後に修了レポートの提出などがあります。

課題の内容や、そのテーマは科目ごとに違います。

詳しくは募集時の募集概要をご参照ください。

(1) 分野 I 信頼され影響力を持つ能力(カウンセリング力)

No.	科目タイトルと研修内容
1	【認知行動療法】2日間・12時間
	<p><目的・ねらい> 認知行動療法を用いてカウンセリング・プロセスを促進する方法を理解し実践できること</p> <p><内容> (1)講義:認知行動療法の基本理論等についての概論 (2)グループ討議:産業場面で認知行動療法を用いたカウンセリング事例の検討 (3)実習:産業場面で用いられる認知行動療法の実習</p>
2	【アサーション】1日間・6時間
	<p><目的・ねらい> 自分の自己表現をアサーションの枠組みで理解し、クライアントへの支援の際に活かすことができるようになる</p> <p>①アサーションの概要を知る ②産業カウンセラーとして、自分の自己表現についての理解を深める ③産業カウンセラーとして、アサーションをどのように活かすかの指針を得ることで、今後の継続学習に活かす</p> <p><内容> (1)講義:アサーションの基本理論についての概論 (2)実習:自己の表現や気持ちについて事前課題でまとめたものを討議する。課題図書から著者の本当に伝えたかった主張まとめ、個人ワークやグループ討議を通して理解を深める</p>
3	【TA (交流分析)】2日間・12時間
	<p><目的・ねらい> TA(交流分析)の理論を理解し、産業場面で個人が自分の力を発揮できるように支援できる力を身につけること</p> <p><内容> (1)講義:TA(交流分析)の基礎理論についての概論 (2)グループ討議:交流分析で基本的な哲学である「契約」の意味を考える (3)実習:産業場面で用いられるTA(交流分析)の技法の実習や事例を検討をする</p>

※科目 No.4 は欠番となっています。

5	【ブリーフ・セラピー】1日間・6時間
	<p><目的・ねらい> ブリーフ・セラピーを用いてカウンセリング・プロセスを促進する方法を理解し実践できること</p> <p><内容> (1)講義:ブリーフ・セラピーの基礎理論についての概論 (2)実習:産業場面で用いられるブリーフ・セラピーの技法の実習や事例を検討する</p>

6	<p>【臨床精神医学・心身医学の実務】1日間・6時間</p> <p><目的・ねらい> 産業カウンセリングの限界を理解し、病理性・疾病性が疑われるケースに対する組織内での支援体制の構築、医療機関へのリファーとその後の連絡調整、復職支援などに関して実践的な対応能力を獲得する</p> <p><内容> (1)講義:臨床精神医学・心身医学の基本的理解の確認 (2)実習:ケアマネジメントの観点からの事例への対応を考え、場面ごとに必要に応じた実務とは何かを考える</p>
	<p>【パーソナリティの病理】1日間・6時間</p> <p><目的・ねらい> クライアントの抱えるパーソナリティおよび発達障害の症状特性理解、ならびに行動上の問題の見立てと目標設定が的確にできること</p> <p><内容> (1)講義:産業場面でのパーソナリティ障害、発達障害の特徴と対応についての概論 (2)実習:産業場面で見られるパーソナリティ障害、発達障害への対応事例の検討</p>
8	<p>【危機介入等の実践的理解】1日間・6時間</p> <p><目的・ねらい> 災害、事故、自殺など事案が発生した時の個人と組織の心理的プロセスとケアの方法など危機介入についての基本的な理解と行動を学ぶこと</p> <p><内容> (1)講義:産業場面での危機介入等についての概論 (2)実習:産業場面で見られる危機介入・対応事例についてグループ討議などで検討</p>
	<p>【キャリア形成支援の事例検討および実習】3日間・18時間</p> <p><目的・ねらい> クライアントの問題を的確に見立て、カウンセリング・プロセスを促進する能力と、各分野でのキャリア教育の企画・実践ができること</p> <p><内容> (1)講義:実践的にキャリア支援を行う上で、理解しておくべき理論や留意点など (2)グループ討議:組織内キャリア形成プログラムにおける事例検討 (3)実習:キャリアカウンセリングおよびキャリア教育研修の実習、ならびにキャリアカウンセリング面接のロールプレイ ※受講者は、原則として協会等の標準キャリアコンサルタント資格を取得していることが望ましい ※科目 No.12【セルフキャリア】を先に受講することが望ましい</p>
10	<p>【心理アセスメントの実践的理解（心理テスト法）】1日間・6時間</p> <p><目的・ねらい> 心理テストを用いたクライアントの問題の見立て、目標設定等のカウンセリング・プロセスを的確に促進できる素養を身につける</p> <p><内容> (1)講義:産業カウンセリングにおける質問紙法心理テストおよびエピソードによるアセスメントの基礎 (2)実習:事例を通じたアセスメント実習、アセスメントを活用した助言・提案のロールプレイ</p>

11	<p>【逐語記録・事例報告の作成と検討】1+2+2 日間・計 30 時間</p> <p><目的・ねらい> 自分の担当事例について客観的に理解し、適切に改善するために逐語記録および事例報告を作成し、それを検討できること 検討を通して得た自身の問題点を踏まえながらカウンセリング力を高め、シニア産業カウンセラーとしての心構えを身につけること</p> <p><内容> ※本科目は 3 期に分けて 1 期から順に受講し、それぞれの期で評価される。3 期の修了証をもって本科目は修了となる (1期)講義:逐語記録、対話分析、事例報告の意義、作成・検討の仕方についての概論 ・シニア産業カウンセラーとしての心構えと逐語記録、事例報告の重要性を学ぶ (2期)実習:逐語記録および事例報告の検討 ・自分の担当事例について逐語記録を作成し、グループ・スーパービジョン(GSV)を行う ・受講前に自分の担当した事例(3回以上の継続面接)について録音記録し、事例報告としてまとめる。また同時にその面接の重要部分の逐語記録を準備する ・事例報告における問題の見立て、展開の転換点、今後の課題や対応等についてGSVを受ける (3期)実習:ライブ実習 ・受講者同士で 30 分程度の面接実習を行う(面接能力を確認する)</p>
	<p>【セルフキャリア開発】1 日間・6 時間</p> <p><目的・ねらい> 他者のキャリア開発をモデルに自分自身のキャリアをイメージし、自分自身の人生を肯定的に振り返り、将来に興味・関心を持って適応していく力を身につけること</p> <p><内容> (1)グループ討議:産業カウンセラーとしてのキャリア開発モデル事例の検討 (2)実習:産業カウンセラーとしてのライフキャリアをプランニングする</p>
13	<p>【自己理解の深度化 (ベイシック・エンカウンター・グループ体験)】2 日間・18 時間</p> <p><目的・ねらい> 産業カウンセラーの基本的な姿勢として、自らのパーソナリティ特性、価値観、体験過程の自己理解と、他者理解の体験を深め、3つの基本的態度および人間尊重の姿勢を培うこと</p> <p><内容> (1)実習:ベイシック・エンカウンター・グループを体験する ※本科目は昼食休憩を含む 1 日 10 時間×2 日間となる</p>

(2)分野Ⅱ 人間関係・組織開発を支援する能力

No.	科目タイトルと研修内容
14	<p>【コミュニティ・アプローチ】1 日間・6 時間</p> <p><目的・ねらい> 個人心理臨床的アプローチから環境との適合性の調節、さらにはシステムへの介入へと専門性の枠を上げようとする時、重要となる考え方や方法・手段などを理解し、講義とグループによる事例の検討を通じて、実践的な事例対応能力をつけること</p> <p><内容> (1)講義:コミュニティ・アプローチの理論と考え方、実践的対応と働きかけの仕方の解説 (2)グループ討議:職場コミュニティにおける具体的な事例を取り上げ、コミュニティ・アプローチによる心理的援助活動をシミュレーションする</p>

15	<p>【多文化と価値観の多様性へのアプローチ】1日間・6時間</p> <p><目的・ねらい> 文化的気づき(awareness)・知識(knowledge)・スキル(skill)の3側面の発展をはかることによって、多文化間の問題解決能力を高めること マイノリティ(エイズ、吃音、精神障害者、性的マイノリティ、民族的マイノリティ、DV被害者、など)をリスペクトし、産業場面で様々な人と柔軟な関わりを持てるようになること</p> <p><内容> (1)講義:現代社会や企業内の文化的多様性と、それへの実践的対応についての解説 (2)実習:産業場面での多文化対応事例検討と実践的対応への演習</p>
	<p>【職場のグループダイナミックスの実践的理解】1日間・6時間</p> <p><目的・ねらい> 産業カウンセラーには、働く人が意欲的に生き活きと働くためのさまざまな支援も期待される。そのため、仕事意欲(ワーク・モチベーション)と、それに大きな影響を及ぼすリーダーシップなどの職場のグループダイナミックスについての理論や技能を実践的・体験的に身につける</p> <p><内容> (1)講義:仕事意欲とリーダーシップの諸理論と職場の影響要因についての解説 (2)グループ討議:仕事意欲やリーダーシップについての自身の体験事例の検討と、ある職場における事例についての検討</p>
17	<p>【人間関係形成の実践的理解】1日間・6時間</p> <p><目的・ねらい> 産業カウンセラーは、個人カウンセリングのクライアントだけでなく、企業等組織の経営幹部、人事労務担当者、産業保健スタッフなどとの信頼関係も築く必要がある。そのため、人間関係形成と、そのツールである対人コミュニケーションについての理論や技能を実践的・体験的に身につける</p> <p><内容> (1)講義:人間関係の形成過程と対人コミュニケーションの理論についての解説 (2)グループ討議:人間関係形成過程と対人コミュニケーションについての自身の体験事例の検討</p>
	<p>【ファシリテーションとグループ・ワークの実践的理解】2日間・12時間</p> <p><目的・ねらい> 産業カウンセラーには、個人カウンセリングだけでなく、グループ・ワークや実際の職場のミーティング等の集団を対象にしたインストラクターやファシリテーターを担うことも期待される。そのため、グループ・ワーク(エクササイズ)の基本的理論、実施上の留意点、ファシリテーションの理論と技能を実践的・体験的に身につける</p> <p><内容> (1)講義:ファシリテーションとグループ・ワークの理論と技法についての解説 (2)演習:グループに分かれてファシリテーター・チームを編成し、指定された課題についての討議を行う。その後それぞれがファシリテーター役となって演習を行う (3)グループ討議:演習の総括としてグループの有り様やファシリテーションの実際についてを討議する</p>
19	<p>【教育研修指導法の実践的理解】1日間・6時間</p> <p><目的・ねらい> 産業カウンセラーは企業内、組織内において、様々な形での教育・研修等を実施することになる。効果的な教育・研修のためには、教育・研修の目的、推進方法、教育指導の流れ、教育マテリアルの作成方法と注意点、効果的なプレゼンテーション、そして評価方法に熟知する必要がある。それらに関する一連の知識と基本的な考え、態度、注意点を習得する</p> <p><内容> (1)講義:教育指導の基本となるべき知識を紹介し、どのように効果的な教育を計画・実施するかのノウハウを理解する (2)演習:事前に受講者が作成したプレゼンテーション資料を使用して模擬講義を行う</p>

(3)分野Ⅲ 組織に働きかける能力

No.	科目タイトルと研修内容
20	【メンタルヘルス支援体制構築の実践的理解】3日間・18時間
	<p><目的・ねらい> 企業団体等の組織内でメンタルヘルスの体制を作って維持運営していくことで、従業員の心身の健康を保ち、さらに生産性の高い職場としていくためには必須となる重要な課題である。産業カウンセラーは、それを支援するために、関連法規や医療的实践を知り、産業保健スタッフ等との連携関係（ネットワーク）を構築し協働することが求められている。そのために必要となる実践的な知識とスキルを習得する</p> <p><内容> (1)講義:メンタルヘルス体制の実践的知識の解説 (2)グループ討議:メンタルヘルス体制作りの実践事例の検討 (3)演習:メンタルヘルス上の問題を抱えた事例について改善策を作成</p>
21	【働きやすい職場づくりの実践的理解】2日間・12時間
	<p><目的・ねらい> 産業カウンセラーにとって、企業団体へのコンサルテーションは今後さらに重要性を増す。メンタルヘルスの改善のみならず、モチベーション、モラル、リーダーシップ、チームワーク、コミュニケーション等の向上、いじめやハラスメント防止、WLBの実現、企業の実態を踏まえた上での文化や風土の確立を支援し、職場の環境を改善する重要な役割を期待されている。その役割を果たすための実践的なスキルを習得する</p> <p><内容> (1)講義:コンサルテーションの基本的理論や手法の解説 (2)グループ討議:モラル・サーベイ等を用いた実践事例の検討 (3)演習:モチベーション等に関する企業幹部等からのコンサルテーション課題について回答・提案書を作成する</p>

(4)分野Ⅳ シニア産業カウンセラーとしての素養的能力（2019年度より新規追加科目）

No.	科目タイトルと研修内容
22	<p>【レポート・報告書作成の研究的視点と実践的理解】1日間・6時間</p> <p><目的・ねらい> 受講者が、研究論文、企画書、調査報告書、課題レポート、事例報告など日頃必要な文書を、問題・課題の理解、実態の把握や仮説の設定、検証や考察などの研究的視点で理解し、自分の伝えたい内容を客観的・論理的に表現するスキルを向上させる</p> <p><内容> (1)講義：目的に応じて文章化する際の着眼点と構成 (2)グループ討議：事前課題の比較検討による着眼点、構成の整理、人に伝える文章表現 (3)演習：事例による文章化の方針立案と表現技術</p>
	<p>【シニア産業カウンセラーの理解（受講ガイダンス）】0.5日間・3時間</p> <p><目的・ねらい> シニア産業カウンセラー育成講座を通して日本産業カウンセラー協会が目指している産業カウンセラー像を理解する。講座全体の主旨と、それぞれの科目で目指しているものを改めて理解することで、この講座を受講するにあたって前提となる事項の理解を深め、シニア産業カウンセラー資格取得に向けて何が必要なのかを理解する</p> <p><内容> (1)講義：シニア産業カウンセラーとは、シニア育成講座とは、受講にあたって必要なスキル、講座には含まれないスキル等の解説 (2)グループ討議：私のシニア産業カウンセラー像とは</p>
23-2	<p>【産業カウンセラー倫理の実践的理解】0.5日間・3時間</p> <p><目的・ねらい> 産業カウンセリングに関連する倫理と法について学び、カウンセリングの専門家として、活動対象者の福利と健康を増進し、危害を防止し、自律を尊重し、公正性を実現し、誠実な職業人となる基本を学ぶ</p> <p><内容> (1)講義：倫理原則と倫理綱領、インフォームドコンセント、危害の防止等の解説 (2)演習：倫理ジレンマのシナリオに対して倫理問題の特定と、解決方法、予防方法を実習する</p>

《科目の改編と修了条件》

シニア育成講座の各科目は、時代の変化などに合わせて随時見直しを行っています。原則として年度を区切りとして、科目の内容・時間数の変更や、科目の入れ替えが発生する場合があります。

科目の改編があった場合においても、受講者に年度による不利益が発生しないよう、全科目の学習時間を合計した総時間は 216 時間としています。

なお、2020 年度からの改編はございません。

●2018 年度末までに受講を開始された方

2018 年度末までに 1 科目以上を受講し、修了証が発行されている場合は以下のとおりとなります。

・科目 No.1 から科目 No.21(うち No.3～No.5 は 1 科目選択)の 19 科目(総受講時間数 216 時間)を C 評価以上で修了した場合、シニア産業カウンセラー育成講座をすべて修了したことになります。

・No.4「ゲシュタルト療法」の修了証は 2019 年以降も有効で、総受講時間数にカウントされます。

・No.22～No.23-2 は必須ではなく、任意とします。

ただし 2019 年度以降の No.1～No.21 の総合計時間は 204 時間です。総受講時間数が 216 時間とならない場合は、No.22 以降の科目および No.3 または No.5 もご受講いただいて総時間数を満たすようにしてください。

●2019 年度より受講を開始された方

2019 年 4 月 1 日以降に受講を開始された場合は以下のとおりとなります。

・科目 No.1～No.23-2 までの 23 科目すべての受講が必須となります。

・23 科目すべてを C 評価以上で修了した場合、シニア産業カウンセラー育成講座をすべて修了したことになります。

《シニア産業カウンセラー育成講座 科目一覧》

科目 No.	科目名	時間数	日数	check
分野Ⅰ 信頼され影響力を持つ能力(カウンセリング力)		132	21	
1	認知行動療法	12	2	
2	アサーション	6	1	
3	TA(交流分析)	12	2	
5	ブリーフ・セラピー	6	1	
6	臨床精神医学・心身医学の実務	6	1	
7	パーソナリティの病理	6	1	
8	危機介入等の実践的理解	6	1	
9	キャリア形成支援の事例検討および実習	18	3	
10	心理アセスメントの実践的理解(心理テスト法)	6	1	
11-1	逐語記録・事例報告の作成と検討(1期)	6	1	
11-2	逐語記録・事例報告の作成と検討(2期)	12	2	
11-3	逐語記録・事例報告の作成と検討(3期)	12	2(※)	
12	セルフキャリア開発	6	1	
13	自己理解の深度化<BEG 体験>	18	2(※)	
分野Ⅱ 人間関係・組織開発を支援する能力		42	7	
14	コミュニティ・アプローチ	6	1	
15	多文化と価値観の多様性へのアプローチ	6	1	
16	職場のグループダイナミックスの実践的理解	6	1	
17	人間関係形成の実践的理解	6	1	
18	ファシリテーションとグループ・ワークの実践的理解	12	2	
19	教育研修指導法の実践的理解	6	1	
分野Ⅲ 組織に働きかける能力		30	5	
20	メンタルヘルス支援体制構築の実践的理解	18	3	
21	働きやすい職場づくりの実践的理解	12	2	
分野Ⅳ シニア産業カウンセラーとしての素養的能力		12	2	
22	レポート・報告書作成の研究的視点と実践的理解	6	1	
23-1	シニア産業カウンセラーの理解(受講ガイダンス)	3	0.5	
23-2	産業カウンセラー倫理の実践的理解	3	0.5	
合計		216	35	

※No.4 は欠番です。

※No.11「逐語記録～」は 1 期から順に受講する必要があり、3 期修了時に修了証明書が発行されます。

※開催時間はどの科目も原則として 10 時開始、17 時終了(昼休み 1 時間含)となります。

No.13「自己理解～」のみ、9 時開始、19 時終了(昼休み 1 時間含)の 2 日間となります。